

長田区庄田町3の六間道3丁目商店街で23日、5年ぶりに地蔵盆が開かれる。担い手不足やコロナ禍の影響で、一度は途切れた伝統行事を住民有志らが再開させる。子どもたちが自由に絵や文字を描いた「アートちょうちん」がお目見えする予定で、新たな装いで夏の伝統行事が復活する。

(長沢伸一)

住民有志が尽力、六間道3丁目商店街で23日

企画したのは、地元の婦人会長山下淑子さん(84)と、同商店街内でチャリティーショップ「したまちのえきロッケン」を運営する合田昌宏さん(51)、三奈子さん(45)夫妻。

山下さんは個人で地蔵を所有しており、5年前まで商店街で地蔵盆を開いていた。かつては商店街に七つの地蔵があり、地蔵盆は子どもの無病息災を願って、多くの人でにぎわったという。だが、担い手の高齢化などで、次第に行われなくなり、山下さんも、地域行事としての継続を断念せざるを得なかった。

合田さんは2015年から同商店街でレンタルスペース

長田区



地域の伝統行事、子らの記憶に

5年ぶり「地蔵盆」復活

1ス「r3(アールサン)」を運営。3年半前に三女が誕生し、ちようちんを奉納しようと地域のほころを訪ねた。「『今年はやるか分

親子ら描いたちようちん飾り

からない』と言われて、当たり前前の行事がなくなりつつあることに気付いた」という。昨年冬、合田さんは山下さんに地蔵盆の復活を依頼。「お手伝いしてくれらるならぜひやりたい」と返答を得た。

合田さんはアールサン

を、今年5月から「したまちのえきロッケン」にリニ

5年ぶりの地蔵盆が開かれる山下淑子さん所有の地蔵



ユール。「まるごとチャリティー」を掲げ、収益の一部を地蔵盆の運営費に回す仕組みをつくった。

また、15年から長田区で2年に1度開かれていた「下町芸術祭」に出演するアーティストらとコラボ。7月21日には、親子でちようちんを作るワークショップを開催した。筆を持った子どもたちは、ゲームのキャラクターや恐竜の絵を描いたり、絵の具を垂らして自由に創作したりして完成させた。参加した中学2年、首藤凛乃さん(13)は「地蔵盆は友達や家族と一緒に並んでお菓子をもらうのがうれしかった。23日も楽しみ」と声を弾ませた。

合田さんは「継続できるようにし、子どもたちの記憶に現代の地蔵盆を残していければ」と力を込めた。



ワークショップでちようちんを作る親子連れら＝いずれも長田区庄田町3